

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。
②①に基づく取組み結果	市道1号線の用地取得を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	通学路に指定されている市道	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要		児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。		
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)		平成24年度に実施した緊急合同点検により対策が必要な通学路を抽出し、通学路の拡幅や歩道を確保し登下校時における児童生徒の安全を図る。		

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市道1号線に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施した。 市道1号線用地取得(A=670.28㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6.3	6.0		%	業務取得
	ii	事業費【平成24年度からの累計】	58,939	65,863	127,557	千円	決算書
	iii	工事延長【累計】	115	115	115	m	業務取得
③事務事業のコスト		平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)		6,924	61,694	金額(千円)	内容	87,226	
	国支出金(千円)	1,700	29,793	18,771	市道1号線用地取得	35,375	
	県支出金(千円)			22,750	市道1号線物件補償		
	市債その他(千円)	1,200	21,900	14,504	市道1号線物件調	26,000	
	一般財源(千円)	4,024	10,001	2,258	用地保全工事	25,851	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	児童・生徒の通学路の安全性を早期に向上させる必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	市道1号線用地取得、市道49号線予備設計	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市道1号線物件調査及び不動産鑑定委託、市道49号線予備設計	58,825	113,423	当初	58,825	61,694	H29からの繰越	53,680
				H29⇒30繰越	54,281		現年分	8,013
③達成状況	未完了							
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため	流用・充当		316				
		令和元年度への繰越額(単位:千円)		41,746				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路安全対策事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	富田 浩司			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成29年度の要望に基づき、通学路の環境整備を行い、自動車講習会など安全指導面も継続して実施する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	平成30年度の要望に基づき、通学路の環境整備を行い、自動車講習会など安全指導面も継続して実施する。 併せて、通学区域変更に伴う安全対策及び防犯対策を継続して実施する。
②①に基づく取り組み結果	指定通学路上の環境整備を行い、安全指導面も予定通り実施した。併せて、通学区域変更に伴う防犯対策を講じた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒及び通学路	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全・安心して登下校できるようにする。
②事務事業の概要	第三次通学路安全対策推進行動計画に基づき、通学路の環境整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ドライバーへの注意喚起や歩行者のための安全施設を設置することで、登下校時の通学路における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	前年度及び年度途中の要望に基づき、可能な範囲で通学路上の環境整備を行った。安全指導面については、自転車安全運転講習会やスクアード・ストレイト自転車安全教室を実施した。また、平成29年度の通学区域変更に伴う安全対策として通学路上の環境整備を行うとともに、防犯対策を講じた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6.3	6	5.7	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	21,998	14,637	金額(千円)	内容	15,000		
国支出金(千円)			11,714	工事請負費			
県支出金(千円)			1,939	樹木剪定委託			
市債その他(千円)			139	青色パトロールカー関係			
一般財源(千円)	21,998	14,637	562	スクアード・ストレイト業務委託	15,000		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	信号機設置や歩道拡幅は中長期的な整備となり、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	学校やPTAからの要望は多くあることから、まずは可能な安全対策工事を実施することとし、併せて、中長期的な工事を検討するため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	通学路整備工事や安全指導	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	環境整備工事を始め、安全指導を行った。	15,000	15,000	当初	15,000	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	0		
				補正	0		
③達成状況	完了			14,637	現年分	14,637	
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円)		0			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	児童生徒安全パトロール事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	富田 浩司			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校や地域、青少年センターと情報共有し、通学路を中心にパトロールを実施していく。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	学校や地域、青少年センターと情報共有し、通学路を中心にパトロールを実施していく。
②①に基づく取り組み結果	徒歩、車による市内全域のパトロールを行い、巡回箇所強化や不審者情報への対応も強めることができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒のために安全な地域環境の維持を図る
②事務事業の概要	市内の指定通学路や公園などにおいて、不審者等に対する警戒パトロール及び下校時の見守りを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	パトロールによる犯罪の抑止を目的とし、下校時の見守りを中心に児童生徒の安全を確保する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市内全域を12名6班体制でパトロールを実施した。また、夏休み等の長期休業の時は、児童生徒の集まる公園等も重点的に巡回した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	学校災害件数の割合	6.3	6	5.7	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	18,093	18,679	金額(千円)	内容	24,886		
国支出金(千円)			18,679	児童生徒安全パトロール委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	18,093	18,679			24,886		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下校時間帯の不審者情報が多く見られることから、学校や青少年センターとも連携し、迅速に対応していく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	通学路の安全確保は継続的に行う事業であり、各関連機関と連携し、臨機応変に対応する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	児童生徒の安全確保のため、パトロールの実施。	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	継続的に市内通学路を中心にパトロールを実施した。	18,721	18,721	当初	18,721	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	0		
				補正	0		
③達成状況	完了			18,679	現年分	18,679	
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円)		0			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校給食運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	垣岡 俊男			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校給食用食材における地産地消(鎌産鎌消)食材の拡充および学校との食育連携の取り組みと、食物アレルギー対応の第3段階に向けた検討を進めていく。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	学校給食における地産地消(鎌産鎌消)食材の拡充および学校との食育連携の取り組みと、食物アレルギー対応の最終段階である小麦除去を実施する。
②①に基づく取り組み結果	食物アレルギー対応では卵・乳除去から始まり、平成29年6月に落花生、平成30年6月にえび・かにを加えた除去食提供を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	食育を通じて食の大切さを伝える
②事務事業の概要	市内小中学校14校に対して、安全で魅力ある学校給食を安定的に提供し、児童生徒の健康増進を図るとともに、食に対する理解を深める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	栄養バランスの良さ、豊富な献立などの給食の充実や地産地消(鎌産鎌消)の拡充および食育の取り組みへの要望がある。栄養素ごとの摂取量を定めた「学校給食実施基準」が改正され、多様な食品を適切に組み合わせた献立の作成が必要となった。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	①小中学校14校児童生徒 8,302人(平成30年5月1日現在)に対し年間184日の学校給食を実施、②アレルギー対応食(除去食)の提供、③栄養士による学校訪問(14校)、④センター見学(32クラス969人)、⑤展示・Facebookによるセンター紹介					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 給食実施日数	184	184	184	日	業務取得
	ii アレルギー対応食の提供人数	8	8	9	人	業務取得
	iii 学校見学対応人数	737	742	969	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	849,631	851,600	金額(千円)	内容	879,497	
	国支出金(千円)		436,230	給食賄材料購入		
	県支出金(千円)		63,725	センター施設購入		
	市債その他(千円)		40,864	維持管理業務負担金		
	一般財源(千円)	849,631	851,600	298,739	運営業務負担金 879,497	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	食物アレルギーのある児童・生徒が、他の子どもたちと同じように学校給食を楽しむことを目指して、食物アレルギー事故の防止に努め除去食を提供する。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	食物アレルギー対応の除去食は7品目(卵・乳・落花生・えび・かに・小麦・そば)除去を目指しており、えび・かにを加え一段階進んだが今後更なる拡充が必要なため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			